

Q&A

大腸の広範囲に多発性潰瘍をきたした 高齢女性の1例

【問 題】

症例：80歳代，女性。

主訴：腹痛，食思不振。

現病歴：20XX年6月中旬より食思不振と腹部膨満感をともなう腹痛を自覚していたが，放置していた。約1週間後の同年6月下旬に症状が改善しないため外来受診。血液検査で高度の炎症所見を認め，精査加療目的に入院となる。排便回数は2～3行/日で，発熱や血便は認めていない。

既往歴：十二指腸潰瘍，虫垂切除術，高血圧。

生活歴：飲酒および喫煙歴なし。食物・薬物のアレルギー歴なし。

内服薬：抗菌薬，NSAID内服なし。野草摂取の習慣あり。

血液検査所見：WBC 10900/ μ L，RBC 343万/ μ L，Hb 10.9g/dL，Hct 32.8%，Plt 22.6万/ μ L，TP 6.0g/dL，Alb 2.2g/dL，AST 28IU/L，ALT 24IU/L，LDH 214IU/L，ALP 173IU/L， γ -GTP 9IU/L，BUN 22.3mg/dL，Cr 1.65mg/dL，CRP 17.28mg/dL，抗核抗体40倍未満，PR-3-ANCA 1.0未満U/mL，MPO-ANCA 1.0未満U/mL。

便培養：有意菌検出なし。

下部消化管内視鏡画像 (Figure 1)。

1. 診断は何か？
2. 治療方針は？

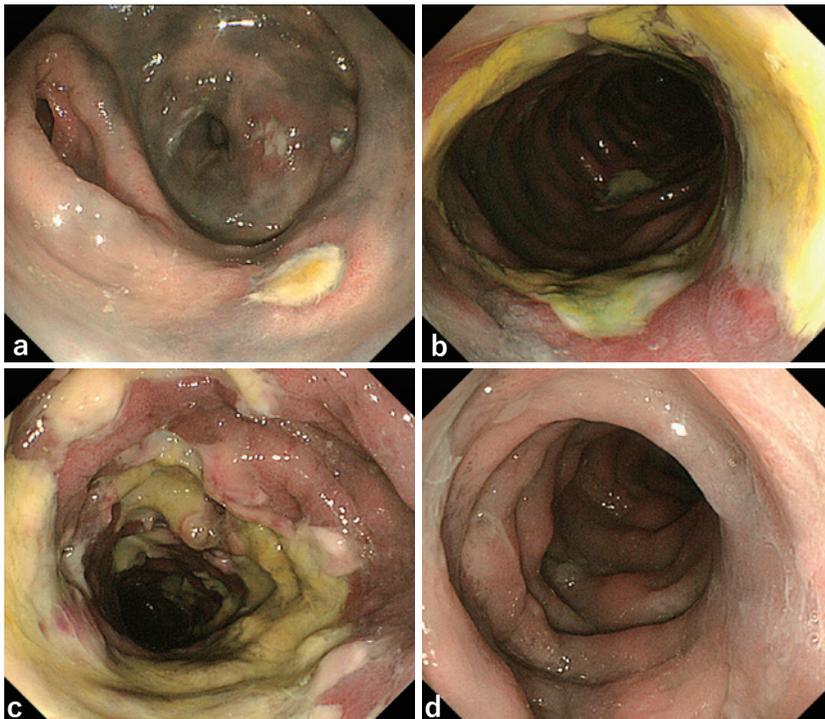


Figure 1. 下部消化管内視鏡所見 a：盲腸，b：上行結腸，c：S状結腸，d：直腸。